

自治の眞髓

農學博士 新渡戸稻造

一、自治の意味

一體自治と云ふ文字を見ると甚だ意味明瞭であるやうに思はれるが然るに實は餘り明瞭でない、殊に私の如き漢字に疎いものは發音だけ兎に角自治と讀むけれ其何う云ふ意味か判り兼ねる、十二三年前でして私が恰ど會敷へ參りました翌年頃と思ひますが朝鮮の統監府から招かれて朝鮮の農場視察に參つたことがございました、視察の目的が農事であるから勢ひ田舎を歩きました、或地方へ行つて日本で云ふ郡役所の郡長ニ朝鮮人の郡司に面會を求めました、例の長煙管を啣へ鬚を生やし見た所却々立派な男が出て來た、統監府から極く達者な通譯を連れて參つて勝手話をしました、最初郡役所に行くと言關の所の廣間に大きな額が掲げてある、立派な文字ニ字の巧拙は判らぬが立派そうに見ねだ、夫が自治と書いてある、字も良い言葉も良いと思ふた、やがて郡司が

出て來たから來意を告げたところ、此の地方の事ならば何事でも知つて居るだけ答へると云ふことで頗る叮嚀である、夫で第一に聞きたいことは此の額の字は一體何う云ふ譯ですかと聞くと「イヤ是は自治と讀みます」と答へた、吾輩も自治と讀む事は知つて居つて其發音を聞く譯でない何う云ふ意味か解らないから御尋ねするのである、吾輩は漢學をしないから判らないが自分の觀るところでは二様に讀める一は自ら治めると讀めるし一は自ら治まるとも讀める、どちらですか「エー矢張自治です」成る程朝鮮式です、夫ちや解らない。何うか能く考へて貰ひたい、自ら治まると云ふのであれば天然自然に治まつて行くので、何にも不都合無しに總ての機關が廻つて居る、自ら治まるから人間は何にもしないでも宜い、即ち貴公のやうな郡司は長い煙管で御好きな煙草をスバク吸つて居ても治つて行ける晝寢をしても何をして居つても構はぬのであるが、自ら治めると云ふことになるが大變な違ひで、逆も長煙管を吹かし安閑と寢て居る譯に行かぬ、寢て治めると起きて努めるのは大變な違ひであるが一體自ら治める主義でやるのか夫を聞くのであると云ふと「エイ、

その矢張自治でやる積りです」と斯う云ふ甚だ失敬な言分である。

二、日本の自治體

諸君は御笑ひになるが今日の日本の自治體は何方であるか、倉敷町は自ら治まつて居りますか自ら治めて行くか何方があるか、之は餘り面と向つて質問を發するのは甚だ禮を失する譯であるから夫は取消しにして、彼是三十年以前に我が日本に於て地方に自治體と云ふものを拵へて今日之を實行して居ると稱して居るのであるが、此の我國に遍く普及し實行されて居る自治體なるものは自から治まつて居るか、自ら治めて居るか、深く質問すれば朝鮮の筆法で矢張自治である、恐らく何方でもない云ふことにならう、換言すれば自治體になつて居ないのぢや、徒に名許り美にして其の實が揚つて居ないのである、租税は未納が多い、又其の未納を再三催促したからと云つて出さない、學校を建てると云ふと彼方の村に建てるとイヤ此方の村に建てると競争する村會に往つて見ると何の事はない一時間位で談笑の裡に決する事を三日も四日も議論して見たり公吏の選

舉をするにも政黨杯が跋扈すると云ふやうなことを往々見る、甚しきは村長に擧げる人がない、無村長の自治體などのあることを見る、まだ、日本の自治體はモノになつて居ない、自ら治まるのでもなく自ら治めるのでもない、治の字でなく自ら生きて居るだけである、成程専門家に云はせると財政を見れば財政はなつて居らぬ教育家は教育がいかと云ふ事業家は道路が悪いからいかと云ふ土地の面積が廣過るからいかと云ふ人もある、種々の事を云ふが是等は抑も末である、根本的の理由と云ふものは道徳的の觀念が無いからである、自治と云ふことを政治問題と云ふて居るが私は道徳と云つても狭い意味から云ふのではない。

三、自治と道徳的感念

私自身でも相當に身を慎んで居る積りであるが酒を飲む人に酒を飲んちやいかんと云ふのではない酒を飲む人は飲むが宜い、藝者買ひをする人は藝者買ひもするが宜い、さう狭い意味の道徳を云ふのではない、廣い意味の道徳觀念が無い以上、誠意なく公平な考へが無い以上自治と云ふことは得て望むべからざる

ものである、鳥渡日本に於ける自治體の沿革とも云ふべきものを考へても判る、明治二十三年でしたか四年でしたか山縣公の非常の骨折りで今日の自治體が出来たのである、山縣公の國家の爲に盡されたことは甚だ偉大なものであるが恐らく山縣公の功績中自治體が最大なもので、何處の戦で勝つたと云ふやうなことは其次の次になるであらう、此の自治體の實施は山縣公の功に歸すべきものである、山縣公の自治體調査の爲に歐羅巴へ見わた時に私は恰ど農政學研究の爲獨逸に留學して居つた、農政學は自ら田舎に關係があると云ふので田舎へ往つて居りました、自治體の研究に來られた時内務省の役人や元老院議員の人々と一所になつて研究したことがある、其後局に當つて大いに國の爲に盡した何某と云ふ人がある、其人に聞いたことがある、君頻に其衝に當つて居るやうであるが何うです獨逸の法律を譯して見て日本に役に立つと思ひますかと聞く、「君駄目だヨ」と云ふ、君が一番衝に當つて居るのに駄目だとは何うしたのだ、「迎も駄目だ人間が違ふ」ソリヤ獨逸人は毛が赤い顔が白いから日本人とは違ふが駄目であるところさう見下げたものであるまい、「イヤ迎も駄

目だ」と實行しない中法律を拵ぬない前から絶望的態度で居る、そんなら何か良いものを拵ねさうなものだが其儘翻譯した夫が御手本になつたのが今日の自治體である、而して獨逸の自治體は獨逸で産れた良いものかと云ふと是は英吉利から持つて來たのである、獨逸の有名なグナイスト博士が英吉利に行き英吉利の自治體を調べたもので、流石獨逸人であるから根氣克く調べた、英吉利人の云ふにはグナイスト先生貴卿方獨逸人が來て私の國の自治體を調べても到底解らない、英吉利人でも解らない、其村に自然に生じたるもので甲の村と乙の村と異つて居る別々に出來たものであるから一般に斯うちやと云ふことは出來ない夫を研究なさるのは御止めになつた方が宜いと云つた、夫れにも屈服しないでグナイスト博士は自己の學問の力に依つて調べ上げ本國に於て實際に之を施行して居る、英吉利人が迎も他人には解らないと云つたことを調べ上げたのである、「事に當るものは迷ふ、傍に見るものは通す」と昔の人は言つたが英吉利人は自分の村でやつて居つてさへ解らないものは隣の人も解らない、傍觀者は解決が困難であると思つたものをグナイスト博士が調べ上

げて獨逸の自治體と云ふものが出來たのである、竟り日本の自治體のお父さんは獨逸で祖父さんは英吉利である。

さて其根本とも云ふべき英吉利は何うして自治體が發展したかと云ふと英吉利人の云ふ自治は *Self-Government* でセルフは自ら、ガヴァルメントは政で自ら治めると云ふのである、之が地方自治體の初で即ち道德的の觀念から起つたものである、決して政治上の術語でなく倫理學の術語である、斯うしたいけれどもマア止めて置かう、俺に善くても人に悪い事は止めよう、即ち己を節制する克己である、自ら治める、之が根抵である、決して勝手放題の事をやると云ふ精神でない、此の精神より起り出でた所の地方自治體を獨逸人が譯して *Selbst-Verwaltung* と云つて居る、英吉利のセルフ、ガヴァルメントとカツキリ合うて居るかと云ふと少し違ふ、英吉利の自ら治めるよりも道德的の意味が少くなつて居る、自ら行政すると云ふ意味になつて、英國のやうに道德的の術語でなく半分は政治的の術語になつて來て居る、根本が少し緩んで來たやうな氣がする少し英吉利の硬い所が無くなつて居る、そこで日本へは獨逸から持

つて來たので文字はセルフ、ガヴァルメントで善い意味である道德的に用ゐて書いて居るが半分は獨逸式になつて居る、自治と云ふ文字は立派でも獨逸の意味よりモット、軟くなつて政治的の意味になり道德的の意味が少くなつて來た、今日の自治體を恐らく道德團體と思ふ人は無いだらうと思ふ、自利團體、自ら利を食るところの團體と思つて居る折角の善い字が妙な事になつて了つた、吾輩斯様な亂暴なことを云ふのは岡山縣ではない特に倉敷町を云ふからである、村の事町の事を協議するのに俺は斯うして欲しい斯うすると俺は得するが夫を自制、克己する慾張つた心を棄てる、道路一本作るにも斯うやれば俺は大變便利ぢやがと斯う思うても夫はいかん俺の利益などを考へるのは怪しからんと村全體の利益を考へ自制心を起し村の爲に己の利害を顧みないで自ら治めて行つてこそ眞正の自治である、村の便利は何うでも宜い、俺さへ宜ければ可いと云ふ遣方が倉敷以外の町に多い、何を遣つても俺で、自と云ふ字を大きく書き治を小さく書いた自治體である、村の事を評議するにも今度の村長に一つ打つ附かつて

やらう、ソレは大變善いけれども村長が言ひ出したから反對ぢや、アノ議員が言ひ出したことは良い同意なんだけれども彼奴は面憎いから反對してやつた彼奴の云ふ事は宜いが云ふが儘にして置く村の爲に宜くないから反對してやると云ふやうな事が倉敷以外に澤山見ることが出来る、何事も自分と云ふものから割出して居るのである。夫から次に何處の村へ往つても税を拂はない事である、來年まで拂はんで居たら村で困るだらう、學校の教師の月給が何うなつても構はぬ、村長が面憎いから拂つて遣らない村長が何うなどするだらうと税を拂はないのを得意として居る、自分の村と考へずに村長の村と考へて居る、一度や二度位催促した位では出さない、四度位催促して仕方なく拂ふ、其催促も村の人が進んで私が催促の任に當りませうと仕拂の催促をして歩く人がどれ程ありませう、あつたら稀なものである殆ど無いと思ふ、そうすれば催促するには何うしても人を雇はなければならぬ、其雇賃は誰が仕拂ふか、村長さんが仕拂ひ人を雇うて仕事をする云ふことは期待すべきでない、又善く無いことである、村の爲に用をするのに金を拂ふに當らない人を雇うて

催促すれば金が要る、其金は誰が拂ふか竟り税を拂はない爲に村の費用を餘計出すやうにして夫で得意になつて居る、自分の手を自分で抓つて居るやうなものである、夫で何うも村の税が集らないとか慷慨論をする、自分で拂はないで何うも税が高くて困ると云つて居る、高くなる筈である催促料が入つて居る自分で割増附で税を出して居る譯である、そう云ふ事柄は何處でも見る、要するに吾々日本人は未だ自治の根柢は道德的觀念に依らなければならぬことを知らぬからである、此點に就ては御互に根本を養ふことに努めたいと思ふ、其根本を養つて居ないから、末葉に至つてどれ程やつても治績は揚らない、鳥渡言へば教育である。

四、教育

何處の自治體に於ても教育は最大要務である、倉敷の町は工業が相當開けて居るから重大問題であるかも知れぬが日本全國に於ける自治體の最大要務の費用は教育であることは言ふ迄もない、五割以上は教育費である、さて其教育はどれ位効果が揚つて居るか金を掛けた丈の事があるか知らん、假に倉敷町は

二萬圓あつて二萬圓掛るとして二萬圓だけの効果が揚つて居るか何うか、教育費に二萬圓掛けて夫丈の効果を揚げよと云ふのは無理であります、そう無理な事を云ふのは或は愚に近いものでありますけれども、自ら夫れだけの事をやれば是に報う所のものを期待すべきである、是だけの金を掛けたら是だけの學問が出来るだらうと云ふことは恐らく皆さんにあるであらう、假令ば大學にやるのに一月二十五圓掛る、二十五圓掛けて専門學を修める、三年五年掛けて學士になつて月給幾ら貰へると云ふ考へが附いて居るであらう、是は小學校に於てもさうである。

通普教育に於て是だけの金が是だけ生徒の爲に要つたならば是位の事は出来そうなるものであると期待する所がなければならぬ、若し期待する所が無いとせば村の人の不熱心なのに驚かざるを得ぬ、二萬圓掛けて其金が何うなつて居るか子供がイロハを覺ぬやうが覺ぬまいが鼻汁を垂らして居らうが居るまいが二萬圓出して居れば宜いと云ふやうな其麼無頓着な教育をして居らるゝ方はあるまいと思ふ、是だけの金を要けたならば子供の知識は大概是位になりそうなるものであると云ふ豫期すべきものがありそうなる

のである、そこで之を外國と比べて見たならば實に日本の教育の効能の少ない事に驚かざるを得ない、假令ば外國に於て倉敷位の町で茲に二萬圓の金を掛けて居れば子供はどれ位の事を覺ぬ三年やつて是位の職業に就く事が出来るかと云ふ豫定が出来る、然るに日本の教育は同じ位の金で同じ位の効果があるか何うかと云ふと却々そうは行かない、何せかと云ふと根本に漢字杯を使ふからである羅馬字に比べて教育の効果は三分一位か揚らんのである何しろ文字を覺えるだけに三年五年要る随分厄介な話である、大工の稽古をするのに弟子入りをして鉋と鑿と錐との區別をするのに三年も要る、親方が之は錐です、是は鉋です是は鉋ですと器具の形や名許り教へるのに三年も掛つて使ひ方を知らないと云ふのは愚の至りである漢字もこんなものである、此の字は松と讀みます此字は梅と云ひます是は風、是は雨、花と漢字を覺えるのに三年から五年も要るとは困つた話である、羅馬字を覺えるのと比べて日本の文化は三年乃至五年遅れて居る、是はまア國家の問題であるから姑く別として措いて教育の効果の揚らない理由は那邊に在るかと云ふと即ち二萬圓の金を出して一萬圓だけ

しか効果が揚らない残の一萬圓は泥溝の中へ棄てた
と同様の事である、或人は學校の教師が悪いと云ふ
けれども吾輩はそう思はぬ、日本の學校先生は理想
とも云へぬけれども一般の社會から比較したならば
人物は良い方で、人格も三倍は高い様である、鳥渡會
うて見ても顔附からして一般國民より良いと思ふ、
私は日本の教育の効果を少なからしむる事は教師が
悪いからとは思はない、學校の設備が西洋の様に十
分でないからと云ふ人もあるが夫は反對である、教
育は設備に依るものでない、設備は教育を援けるも
のであるが設備ある爲に教育の効果を見ない事があ
る、田舎の學校を歩いて見ると標本室に澤山の材料
が塵埃だらけになつて居る、生徒に見せる爲に五千
圓要けて買ひ入れたと云つて居るが何時使つたか判
らぬ、是は生徒に見せる爲でなく蜘蛛を教育するの
ぢやないかと思はれる、蜘蛛の巢で一ぱいである、
標本が多い設備が何うとか云つても斯うなると教育
の効果を減らして居るのです、私の經驗に依つても
設備の十分でない學校に於て却て教育の効果が揚つ
て居る、設備が十分であるから教育の効果が揚ると
思ふのは極端な考へである。一口に言つて見れば佛

蘭西の教育の行方と英吉利の教育の行方とは其處に
在るかと思ふ、假令ば英吉利に於ては子供に電氣の
話をしようと思ふと先生が子供に對し明日電氣の
話をするからお前は銅線を買つてお出でと云ふ、子供
は甚麼銅線が要るのか、どれ位であらうか太いのを
買うても仕方がないと見計うて買うて来る、一人の
子供にお前は徳利を買つてお出でと云ふ、甚麼徳利
を買つたら宜いか、廉いもので宜いと云ふのである
からと是も適當なものを買つて来る、又一人の子供
にお前は亞鉛を買うてお出で、お前は硫酸を買うて
お出でと吩咐けると子供は種々と考へて相當のもの
を買つて来る、銅線は何處へ行つたらあるかマサカ
八百屋や魚屋にない金物屋に行く、アノ机の上です
るのであるから六尺位あつたら宜いであらうさう何
線も要る譯でないからまア二間買つたら宜いと判断
して買つて来る一尺幾らと云ふことも判る、此方の
生徒も亞鉛なり徳利を買つて来る、先生が實驗をし
て見せる、生徒はアレは俺が買つて来たのだが旨く
行くぞ宜いぞ見て居る、斯麼具合で俺が買うて來
た銅線で先生が行る、俺が買つて來た亞鉛で先生が
行るのぢや、俺が買つて來なければ先生が行れる譯

はない、アノ徳利は俺が買つて來だのちやと云ふやうに却々皆の意氣込が宜い、設備が無くても斯麼風にして行るから設備のある學校よりも成績が良い、佛蘭西式を云へばチャンと部屋に收まつて蜘蛛の巢が張つて居るのを小使が出して來る、其處で先生が講釋をする、是と是とやる消極と積極と斯うやるとバツト火が附く、生徒はアツト口を開いて居る、先づ設備が整つて居ると斯麼ことを行つて居る、故に設備に就いてはそう心配する事はない、少し巧者な先生は自分で設備して見せる、生徒に手傳はせて行る此の方が却つて効果がある。

五、學校外教育

私の考へでは學校其物の誤りでなく學校以外の誤りであると思ふ、學校で教へたものを傍から取消して居る風がある、學校で折角教へた事を學校の門を出ると直ぐ取消されて居る、村の風俗なり習慣なり思想なりが學校で教へたことを片つばしから消して行く、子供の頭の中へ忠と云ふことを教へ込んでも門を出ると皆が掛つて消して居る。私が北海道に行つた時雪の降る日であつた可愛らしい子供が連れ立つ

て何か話しながら行く、歩きながら聞いて居ると一人の子供の云ふには「私の所の先生は愚な事を云ふせ」モ一人の子供が「そう甚麼事を云つたの」地球が圓いと云つた「私の先生もそう云つたよ眞正なんだらう」嘘だよ「そう地球は圓くないの」内の祖母さんが愚なことを云ふなど叱つたよ……成程折角地球の圓い事を教へても村の輿論、村の學問が之を消して了ふ、思想に於て尙然り子供が學校に來て勅語を拜讀する、先生が子供に能く解るやうに説明して聞かせるが子供に解らぬ語がある、皇祖皇宗と云ふ事からして解らぬ、御天子様の御先祖の事であると教へてやると子供は納得する、夫から段々進んで行つて友達は仲好くせよ、夫も解る、兄弟は喧嘩してはいかん、夫も解る、夫婦相和す是が鳥渡解らぬお前達の父さん母さんが夫婦である、夫婦相和すは仲好く暮す喧嘩をしないで暮すことであると説き聞かす、夫が善い事であると聞いて宅へ歸つて直ぐ父親や母親の態度を見る、そうすると主人は何か氣に入らないことでもあるか細君に對してボンボンやる子供は夫婦相和すとは斯麼事か知らん先生の云ふ事と少し違ふが此方が眞正なんだらうと云ふ觀念を有つ

て来る、折角學校で教へたことも學校を出ると皆取
消して了ふ、二萬圓の金を要けても一萬圓の効果は
揚らないのである、畢竟残の一萬圓は村の人が掛つ
て効果を潰して了つて居る、是ちや成程自治體の最

大要務とする教育も著しき効績を揚げない譯である
即ち私の云ふ自治は其根本に遡ると道德的觀念に
在ると云ふ譯で夫を思はぬ結果何事も出来ないの
である。亞米利加には金があるから出来る日本には金
が無いから出来ぬと云ふが果して無いとしても使ひ
やうを知らない死金を使つて居るからである、吾々
でも同じ事で貧乏な暮しでは旨い物も喰つて居れな
い、朝は味噌汁だけで儉約する晩飯に漸々鹽物を喰
つて其残りを細君に喰はせ、三人四人の子供を細君
に養はせて居る、そして得意になつて居る人が澤山
ある、何うも家内が經濟が旨くないと云つて居るが
果してそう金を遣つて居るかど云ふと、そうでもな
い、夫れ相當の所へ行くと麥酒だとか御肴だとか命
じ一本二本ではんで聞召して居る、そう云ふ時に
妻君へそれだけの分配が行くかと云ふと一滴の麥酒
も與へない、却つて空徳利が頭へ行く位のものであ
る、錢が無いのでない使い方が間違つて居るのであ

る、細かい計算をしながら自分は料理屋物を喰つて
一々計算もして見ない、宅は喰ふや喰はずにして居
る人が澤山ある、夫と同じ事で大きな經濟も使ひや
うに依つては何うにでもなるのである。

六、人の邪魔

夫から折々聞くことであるが何處でも電氣事業杯を
町村で行らうと云ひ出すと直ぐ反對者がある、誰々
が云つたんだから大に反對してやらう、彼奴の云ふ
ことは癩に觸る、今の内に往生さしてやらんと行け
ないと運動費に千圓貳千圓要け反對するのを誇りに
して其結果折角の好い事業を妨げ明るい電燈を暗闇
にして引込んで居る、道路を造るにもそうである、
此の道路は此處に附けると宜いが之は誰々が云ひ出
したんだから反對すると反對運動に金を使つて居る
其金を道路改築の爲に使つたならば宜さうなもの
だが何しろ反對するのに金を使ふことは夥しいもの
である、本縣には此の如き事は無いやうですが人の
邪魔する爲に金を使つて居ることは大したものです
此間も或夫人に會うたお子さんが皆亞米利加へ行
つて居られるのです、先達て歸つて來て間もないの

に直ぐ亞米利加へ行きませす迎も居られんと云はれるから喰物が不可のですかと話すと喰物は亞米利加でも米を喰て居るが斯う狭くては手一本出されん何をしても反對されるから迎も伸びない思ふ存分に出来る新天地に行く方が宜い實に困つて了ひましたよと話された、實際妙な癖がある、私か四年前米國へ往つた時船が布哇に寄港することになつた布哇の領事は三日前に無線電信で一行何人居るか尋ねて來た、ホノル、に著くと約束もしないのにホテルから迎へに來て居る、自動車五臺許りで皆日本人が乗つて居る、十時間船が碇泊して居る間に見られるだけのものを御目に懸けると云つて何十哩を走るのだから偉い速度である、所が田舎道へ行くと少し先きに一頭瘦せこけた馬車がブラ／＼やつて居る、エー構はぬアー云ふものゝ爲に道を塞がれるのは宜くないとブ／＼やつても一向避けない間近くなつてブ／＼やつても休憩して煙草をスバ／＼やつて居る、困つたナア少し寄せて貰ひたいがと氣が氣でない、ここも日本人ちやありませぬかと云ふ話が出た、そうかも知れんと同行の一人がモシ／＼と云つて能く見ると果して日本人である、聲か知らぬと思つたと云

へば「そう貴君方を白かと思つたからネ」と、白とは亞米利加人と思つたから邪魔してやつた日本人ならば愛國の念が厚いのであるから何も邪魔する考でなかつたよ、此の愛國心も偉いものである。諸君、日本人排斥の起るのも無理はあまりせぬ、斯う云ふ男が一哩毎に居つて御覽なさい交通遮断も同然ではないかそう云ふ愛國者では堪つたものでない、日本人は何處まで行つても斯う云ふ風がある、如何にしたらば人の邪魔をすることが出来るかと云ふことを朝から晩まで考へて居る、北海道へ行つた時或老人が私は西洋人と日本人との差が解つた、今迄氣が附かなかつたが道を歩いて解つたと云ふ、成程北海道は新開地が多い密林の中に道を作り兩側に伐つた木が仆されて居る其事を云ふのである、日本人は横になつて居る木があれば跨いで行く、西洋人は傍へ寄せて行く、此處が違ふ、是は書籍を讀んだのでない實驗で大に穿つた事である、吾々は邪魔な木があると跨いで行く其時分に後から來る人も邪魔になつて氣の毒であると思はんでもないが俺一人が苦しい目を、して後の奴が苦しまいと俺一人損した事になる後からモウ二三人跨げたら宜らうと思ふ、西洋人は俺

は厄介ぢやが俺一人やつて置けば後が楽になると頼まれぬせぬに寄せて行く夫位でなければ自治體制度も完全に行はれぬと思ふ、アレは良いけれども彼奴が云つたんだから一つ困らして遣らう、甚しきは俺一人樂して他の人が困難するのを見てキビがよいと云つて居る、ちよつとも關係のない人が怪我でもするどキビがよいと思つて居る、彼奴大きな面をして居るから何か不時があるどキビが宜いがと祈る氣味がある、和田垣博士が新渡戸君「キビがよいと云ふことを英語で何と云ふか」と聞かれた、僕は知らぬ實は種々英語の中を探したけれども見當らない、併し乍ら獨逸語に在る、Schaden-Froh 〓 シャートデンは害、フローは悦ぶ、人の害を悦ぶのである、そう云ふ語は英國人にはない、英國人と雖も意地の悪いねちけた人もあるキビのよいと思ふ人も居るけれども文字が無い、吾々のキビがよいと云ふことを聞いて驚いて居る。斯う云ふやうな者が一人でも居れば自治體は行はれない、自分獨りで宜ければ他の者は何うでも宜いと云ふことでは自治體になつて居ない、自分の體も自治體の一部に居る以上他の一部が苦しむと宜いと云ふ考への起る筈は無い、頭痛がする時

には腫が悦んでブリ／＼することは無い、腹痛で苦しんで居るのを耳が悦ぶと云ふ例は無いのであります、腹が痛ければ鼻まで痛い感じがする一箇所痛ければ全體が痛い、自治體も夫と同じく數多の人が困つて居るのに一人だけ宜いと云ふ筈はない、ところがアレはよいキビだと云ふことがあつては自治體になつて居ないのである是等の事を思ふと日本の自治體はなつて居らない、是は根本の觀念が違ふからである、まだ／＼自ら治める 〓 自らは犠牲になつても治める、公共團體の爲に己の不便も止むを得ぬ一歩進んで自分の身を犠牲に供してもやると云ふ道德的觀念が無ければならぬ、唯今では此の觀念が缺乏して居るのである、先刻自治體の財政に就て御議論もあつたやうに思ひますが(一三〇頁參照)其根本に遡つて自治體と云ふものは此の如きものである第一に己を治めると云ふことが基で道德的觀念から來たものであると云ふことに考へが定まつたならば財政の事なり、事業の事なり、教育の事なり自治體の爲すべきあらゆる仕事をあらゆる方面に發展させることは疑ふべからざる事であつて、其根本を正しさへすれば其末は夫こそこら治まるものである。

聊か日頃考へて居りましたことを此機會に際し申し上げましたので御參考になる程の事はないけれども尙一層此點に就て御考へを煩はしたいと思ふのでありませう。

自治體の財政

早稻田
大學教授

安部 磯 雄

一、自治體

自治體と云ふと語は難しいのでありますけれども、竟り皆様の御住ひになつて居ります所の倉敷町と云ふものが即ち自治體である、或は大きくなりますと岡山市が即ち自治體であります、此の自治體の財政と云ふことは歐羅巴、亞米利加諸國に於ても可なり人人の頭を悩まして居る問題である、と云ふのは段々此の自治體と云ふものが大きくなるに随ひ且つ文明が一層進んで來るに随つて色んな事を行りたい考が起つて參ります、恰も私の一家と致しましても小さいながら家を有つと云ふと又段々屋敷を取擴げて

見たいです、或は此の家には斯う云ふ不便利な所があるから是處を續して見たいと云ふ色んな慾望が起つて來るものであります、恰も自治體も自分の住つて居る場所でありませう、自分の家と同じく自分の住つて居る場所を良くしたいと云ふ考が起つて參ります、それでは無論私共の望を達する事は出來ないです、すから何處の自治體の有様を見ましても年々財政は膨脹致しまして多くの金を費さんければならぬ事になつて參ります、極端な例を御話し申せば亞米利加でも紐育市などは今日既に人口四百萬に達して居る大都會である、人口から云へば東京の二倍半位に過ぎないが、東京は一年間にどの位費つて居るかと云ふと經常費臨時費合して四百五十萬圓、五百萬圓でありますけれども紐育に於ては一箇年二億以上、二億何千萬と云ふ金を費つて居る、殆ど日本の國家經濟の約半分位を一つの都會で費して居る有様であります、小さい都會に於ても夫れ相應に金が掛りて居ります、デありますから自分の住つて居る自治體と云ふものに對しては今から相當の考へを有つて準備に掛らなければ十年二十年の後は此問題が起つて